

主要科目の特長(大学院)

児童学専攻	
児童心理学特論Ⅱ講義	生涯発達の視点に立った発達心理学の諸理論を学ぶとともに、現代社会における子どもの発達や養育上の問題について、そして必要とされている発達支援や養育者等への支援について学ぶ。
児童心理学特論Ⅲ講義	子どもの発達に欠かせない家族関係に関する心理的あるいは臨床的諸課題について学び、専門家としての支援とはどのようなものなのかを考える。子どもや家族、さらには学校や社会で生じる諸問題について概観し、思春期・青年期の子どもや成人期の家族システムを中心に、それらの有機的関連性を学ぶ。
児童保健研究講義	日々刻々と変化していく子どもの保健に関する現在の諸問題について、代表的文献を検索、精読、理解する。そして、問題をより深く分析、考察しつつ、解決への対策を立案する力を身に着ける。
児童社会学特論講義	子どもを取り巻く社会の大きな変化を踏まえながら、家庭、学校、地域社会における事象が子どもに及ぼす影響について考察する。とくに、子どもにとっての望ましい社会のあり方を考えるという福祉的観点にたった考察を重視する。
児童文学特論講義	児童文学の成立と展開の歴史から、ファンタジーや冒険物語、日常の物語、動物物語などさまざまなジャンル、その成立の背景や文化の問題を扱い、児童文学が前提としている「子ども観」についても考察する。
児童教育特論講義	生涯発達の視点から、特に乳幼児の保育・育児領域について力点を置きながら各年齢期の支援の課題、支援者の関わり方について学ぶ。人の成長・発達を支える専門家としてその支援や援助を考えていきたい。
児童文化特論Ⅰ講義	児童文学・児童文化領域の中で、特に手作り絵本を作る行為によって生まれるコミュニケーションの広がりや多方面に及ぶ教育的な役割、社会的弱者に寄り添う絵本の存在など、手作り絵本の先に見えてくるさまざまな可能性について理解を深め、児童文化を考察していく。
児童教育研究講義	音楽的自己、音楽的発達、音楽に内在する機能(生理的・心理的・社会的)に関する理論を基盤とし、教育・保育・養育・療育などにおける音楽表現行為を多角的な観点で分析・考察する。
食物・栄養学専攻	
食品学特論ⅠA	本講義では、これまで学んできたヒトの食物成分(糖質、タンパク質、脂質)の代謝(異化)経路とは異なる生物の食物成分生合成(同化)経路について学ぶ。
食品学特論Ⅱ	食味特性の官能評価について、JIS及びISOの規格と日本の官能評価の現状を学ぶ。さらに各種食品の特徴と官能評価法について事例を基に適切な評価方法とは何か、理解を深める。
給食経営管理特論	本講義では、給食を中心とした・中食・外食の生産システムやメニューとその効果検証について、最新のマーケット状況や海外の実践例から学ぶ。
栄養学特論ⅠA	本講義では学術的研究の基礎として情報リテラシー、動物実験法、生化学や分子生物学的解析法等を学びつつ、食物とヒト疾患との関わりについて理解を深める。
栄養学特論Ⅲ	本講義では栄養生理、特に骨代謝研究を中心とした硬組織(骨や歯)に関する最新の研究について概説する。
栄養学特論Ⅳ	近年報告されている0次、1次、2次、3次予防に関わる観察/介入の栄養疫学の研究報告を読み解きながら特にDOHaD疫学を軸に学びを深め、実践研究および食育活動に役立つ知識・考察力を修得する。
食品微生物学特論A	微生物の様々な機能について、微生物学関連の最新研究成果を取り上げながら概説すると共に、微生物を対象にした様々な実験法についても紹介する。
食品学特論Ⅲ(調理科学)	食物のおいしさとテクスチャーの関連性について、それぞれの客観的測定法、主観的測定方法に関する解析手法を通して説明する。
栄養教育学特論A	認知行動療法を応用した栄養教育について学ぶ。特に基礎用語の理解を深め、臨床栄養教育への応用が可能な尺度について学ぶ。
住居学専攻	
建築設計スタジオⅠ～Ⅱ	建築の設計は建築学および住居学、さらには工学全般や広く人文・社会関連の諸学問の知識や設計製図の技能を駆使して、「与条件整理」、「問題の解決」、「創造的提案とデザイン」のプロセスを経て設計者の設計コンセプトを具体的な設計案の形で表現するものです。この授業においては一つの課題を通じてその一連のプロセスを学び、最終的なプレゼンテーションによってその表現の能力を身につけることを目的とします。
防災・安全性能論	住居の防災と安全に関わる情報をどのように理解するか、また消費者にわかりやすく情報伝達することについて演習をまじえつつ、知識を習得する。
保存再生論	文化遺産の保存・再生のシステムと設計手法に関する専門知識を修得する。とくに都市・建築遺産を対象として、保存・再生の歴史や技術とその背景にある理念を学ぶ。さらに、フィールドワークによって、現存する都市・建築遺産における保存・再生の実態と、そのシステムに対する理解を深める。
環境・設備システム論	物理的環境要素の計測実験、見学会、特別講義、最新技術やその実態に関する論文作成、設備設計製図やインターンシップなどの種々の内容を組み合わせ、設備の技術や実務に関する最新情報やより高度な専門技術、設計技術に関連した知識を学習する。
ユニバーサル環境論	ユニバーサルデザインの理念を環境デザインに展開するための人間中心設計の方法、デザイン技術、バリアフリー・ユニバーサルデザインに関する法律・基準・規格に関する知識を習得する。
JS寄附講座都市居住計画演習	集合住宅の居住者や施設の利用者の視点から人々の生活や心理・行動を調査・分析し、その結果をもとに計画・設計提案へと結びつけていくプロセスの学習、また提案の根拠を分かり易く、適切にプレゼンテーションする能力を養う。
インターンシップⅠ	設計事務所における実務実習を通して、建築設計実務の概要を把握し、業務に対する確かなイメージを持つとともに、設計に関わる諸条件とそれを形態化するための手法やプロセスに対する知見を与える。

被服学専攻	
衣材料学特論	衣材料学特論Ⅰでは衣服材料のうち繊維について取り上げ、衣材料学特論Ⅱでは糸から布までの範囲を対象として、その種類とそれぞれの製造法及び構造と性質について学ぶ。
衣整理学特論	衣生活を営む上で重要な繊維製品の取扱いにおいて、使用や着用による汚れの付着と洗浄、繊維素材の染色仕上加工に関し、コロイド・界面化学的な面及び有機化学的な面を取り上げて考察する。また、環境負荷に配慮した試みについても考察する。
衣人間工学特論	身体の寸法・形状、姿勢・動作、生理・心理、感覚などの人間の様々な特性を考慮して、被服を含む種々の製品を設計、評価し、改善を加える際に必要となる人間工学、感性工学、人間中心設計について学び、設計への応用について考察する。
服飾美学特論	西洋近世から近代の服飾を、同時代の美意識や感性の表象として捉え、社会・文化史的側面から考察する。各種の文献資料や図像資料(絵画やファッションプレート)を扱い、服飾文化の意味を読み解く手法を検討する。
服飾文化史特論	近代東アジアの服飾文化について、既往研究を講読しながら学修する。東アジアの諸地域では、19世紀後半からの近代化に伴い、政治・経済・外交・文化等の動きと密接に関わりながら、従来の服飾文化が変容していった。その諸相をさまざまな資料を手掛かりに考える。
消費生活特論	我々の消費生活は豊かになり、多様化している。しかし、生活の安全・安心が脅かされる事件や事故が後を絶たない。そこで、現代の消費社会の諸相を社会科学の視点から分析、評価する能力を養い、持続可能な消費社会のあり方を考える。
被服身体運動科学特論	運動生理学的観点からヒトの身体動作をとらえ、動作に対する制約や補助的位置づけとしての被服の役割について考える。骨格や筋肉、神経といった運動に関わる身体の基本的特性が外部環境との相互作用の下にどのように機能し、また、被服の着用が双方にどういった影響を及ぼすのかを考察する。
生活経済専攻	
ミクロ経済学特論Ⅰ	生活にかかわる様々な問題について、ミクロ経済学の手法(需要と供給の理論、ゲームと情報の経済学、行動経済学)を用いてその原因を明らかにした上で解決策を提示する。具体的には、環境問題や医療問題に対する公的部門の役割と課題、健康の経済的価値の計測、そしてプロスペクト理論によるスポーツ観戦行動などを理論的および実証的に研究する。
地域経済特論Ⅰ	地域の開発計画は、従来は国がその財政と権限に基づき行ってきた。しかし、昨今の主に経済的環境から、地方分権と再編やNPOの参画など状況変化を経験しつつある。現実的意味での地域経済論の要請とは、地域問題があるということから発生している。そこで、地域の抱える具体的問題とは何かということから出発し、その現状分析と問題解決のために経済的にいかなる選択肢があるかを探っていききたい。
家庭管理特論Ⅰ	生活の社会化の進展により、家庭における生活過程は、費用・生活手段・サービスにおいて、家庭内から社会的におきかえられてきた。家庭管理を再構築する主体は、この生活様式の変化にどのように対峙するのか、家族・家庭が保有する人的・物的資源は、どのように何と結合させる活動が要請されるのか、現代生活の研究課題の視点からとらえていく。
生活公共組織特論	家族生活-コミュニティ-ソーシャル・ガバナンス-自治体政府という、生活と地域をめぐる多様で多重な関係の再構築が問われている。ここでは「生活の公共化・公共の生活化」という視点に立ち、家族、コミュニティ、市民団体、地域経済組織、行政などの新しい協働の在り方を構想する。
フードシステム特論Ⅰ	日本の食料政策は、戦前・戦後の栄養摂取を課題とする時代から、食の安全、肥満対策、環境対策へと重点施策を変化させている。本講義では、農畜産物からコンビニ向けの加工食品まで多種多様なフードシステムの歴史と現状を把握し、「食」のあり方を「コミュニケーション手段」としての社会的側面から捉えなおすことで、SNSやデリバリーなど飽食の時代における未来のフードシステムを構想するために必要な知識と考え方を学ぶ。

日本文学専攻	
上代文学演習－1・2	上代において主要な作品である『萬葉集』を読む。古写本・古註釈書、或いは古字書の扱いに慣れる事によって、上代の人々が中国の漢字を使って表現した日本語を読み解き、当時の文学的な営みの本質を探究する。
中古文学演習－1・2	中古文学の諸作品を扱う。受講者の発表を通じて、本文校訂・注釈などの基礎的作業を行う力を確かなものにする。また先行研究の吟味、他作品との関連性についての考察、有職故実の調査などを行うことにより、中古文学作品を研究する際の様々な方法論に通じ、自己の研究方法についても探究する機会とする。
中世文学演習－1・2	中世文学作品(特に室町時代の作品)ならびに作家をめぐる諸問題について、最新の研究成果を紹介しながらさまざまな角度から講ずる。輪講形式で学生による発表を交え、古典文学研究のための基礎知識や基本的な手続を再確認し、専門的な注釈方法の習得を目指す。
近世文学講義－1・2	近世文学の中から、現今の学会の研究状況などから問題となる作品を俎上にあげ、その作品について、注釈、評論、時代背景についての研究方法を身につける。あわせて、その作品の周辺の文学状況や研究史などについても、自身の力で調べ、考察する。
近代文学演習－1・2	近代文学の諸作品(小説・詩歌・戯曲・評論)について、作品そのものを精読するとともに、代表的な先行論についても丁寧に吟味する。作品と先行論を問わず、精読には、方法論的な反省も不可欠である。その点についてもしっかり学んでもらい、自己の研究テーマを深化させる機会とする。
日本語学講義－1・2	日本語学の主要分野の基礎的な項目・研究方法を体系的に身につけ、独創的な日本語研究を行うための高度な能力を養うことを目指す。先行研究の正しい理解と把握、言語資料の正確な解読を行いながら、研究テーマの設定の仕方を探究する。
漢文学演習－1・2	中国文学・思想分野の代表的な作品と論文を精読し、各テーマについて基礎的な知識を学んだ上で、調査と考察を行う。発表と討論を通して、受講者それぞれが自身の関心や研究を発展させることを目指す。
日本語教育学演習－1・2	日本語教育学の研究対象である教室談話分析、接触場面における会話分析、ピリフ、学習ストラテジー等に関する論文を読み、研究領域、研究方法を理解する。その理解に基づいて、受講者の研究テーマに応じたアクション・リサーチを実施し、実践的な研究手法を身につける。
文献情報処理－1・2	日本文学専攻の学習・研究に役立つ情報処理技術を身につけることを目標に、情報や文献の検索法、文字列操作等の情報処理、簡単なプレゼンテーション技術を演習形式で学習する。
英文学専攻	
アメリカ研究特論I	前期には、アメリカ史学史に関する文献と論文を読み、アメリカ史の文脈からアメリカ民主主義とアメリカニズムについて考察する。後期にはより具体的に、人種とジェンダーの問題に焦点を当て、アメリカ的価値観の特質を探究する。
イギリス文化特論	この授業では、イギリス文化を研究するための方法論を学ぶ。文化の研究は、文学研究、歴史学、社会学、さらには民俗学や人類学など、さまざまな分野と関わるので、いろいろな切り口を知っておくことは大学院での研究にとって重要である。この目的のために、毎年どれかの分野を選んで、それに関する英文の入門書を演習形式で読んでいく。
英語学演習	主に語用論、社会言語学、言語人類学、談話研究などの概説書や論文を読み、ディスカッションを行う。これらの分野における研究の方法論、分析による結論・考察の妥当性などについて多角的な視点から考える力を養う。
近代英文学講義 I	本授業は、イギリス・ルネサンス文学の研究を通じて、同時代のイギリス文化の構造を歴史的に考察することを目指している。この目的のため、シェイクスピアを中心とする文学テキストの精読を重視するとともに、イギリス・ルネサンスに関する第2次文献の取り扱いについて解説していく。
米文学演習	20世紀のアメリカ小説の中から主要な長編を取り上げ、丁寧に読み進める。作品に表れている時代的、民族的特質などの理解に努め、またその作品に関する先行研究の論文も読み、様々な作品分析の方法を習得する。
早期英語教育特論	小学校英語教育の指導内容と指導方法、効果的な教材やteacher talkの方法など、早期英語教育にかかわる諸課題について考えていく。小学校英語教師の指導力の養成・強化を主眼に置くが、小学校で英語学習を開始した子どもたちを受け入れることになる中高の英語教師を目指す学生にも開かれた内容の授業となっている。
史学専攻	
日本史特殊研究Ⅱ－1 (日本古代中世史特論)	「醍醐寺史料」の輪読を通して、中世醍醐寺の寺院組織と多彩な仏法の実相を明らかにします。併せて寺院史料の読解と活用方法についても習得します。
日本史特殊研究Ⅲ－1 (日本近世史特論)	政治史・対外関係史を中心とする日本近世史に関する史料・文献を収集し、それらを読み込んで課題を追究します。特に、先行研究について検討する力と、古文書解読能力を身につけることを目指します。
日本史特殊研究Ⅳ－1 (日本近現代史特論)	経済社会を中心とした日本近代史を実証に重きをおいて研究します。特に比較史的視点に立った蚕糸業史・農村史を軸に、地域における一次史料を渉猟する共同調査を行い、史料の保存・公開にも意を用います。
東洋史特殊研究Ⅰ－1 (東洋古代史特論)	6～10世紀のユーラシア東部における東西および南北交渉の諸相について考察します。特に紀元一千年紀に内陸交易を独占的に支配したオアシス都市民・ソグド人に注目し、関連史料と論文の講読・検討を行います。
東洋史特殊研究Ⅳ－1 (東洋近現代史特論)	中近東イスラーム現代史に関する論文等を講読します。取り上げるテーマは、文明としてのイスラーム、民族・エスニック問題、宗教・宗派問題、国民国家などです。また第二次世界大戦期日本の対中東イスラーム政策も視野に入れます。
西洋史特殊研究Ⅱ－1 (西洋中近世史特論)	ジャンヌ・ダルク裁判に関する史料(ラテン語・古仏語)と研究文献(仏語・英語)を精読し、当該事象の歴史的背景を考察するとともに、中世ヨーロッパ文化の多様性を検討します。
西洋史特殊研究Ⅳ－1 (西洋近現代史特論A)	ヨーロッパ近現代を対象とする社会史研究に関して、具体的な史料(英・仏・独・伊語)や研究文献(主として英語)を取り上げて批判的に検討し、方法論的な考察を行います。

社会福祉学専攻	
社会福祉原理特論 I	社会福祉の政策や実践は、ある問題を前提にして構築されていくとともに、逆に政策や実践によって、福祉問題の категория が形成されていく。こうした問題と政策・実践の関係構造について、政策研究及び歴史研究の手法を利用して研究できるようになることを目指す。
社会福祉政策特論B I	外国人受入れ政策や多文化共生施策の歴史的な経緯とともに現状や課題についての理解を深める。また地方自治体の多文化共生推進計画を通して、計画の立案について学ぶ。
社会福祉政策特論C I	現在、多様な家族、それらの新しい関係を踏まえて、生活を充実させるような条件を整備し、サポートする施策が必要とされている。ゼミでは、①家族・結婚の変容、②仕事と家庭のバランス、③家族形成と子育て、④女性の働き方等を中心に上げる。国内外の文献、資料を用い理論と実態について理解を深める。また、統計分析を用いた研究を取り上げる。
社会福祉方法特論B I	変革の時代の社会福祉現場で急務とされているのは、サービスの質の向上と権利擁護である。本講では、最新の福祉理念にもとづく支援体制の確立とサービス提供のありかたを、英国の実践モデルに関する諸文献を参考にしながら、探求する。
社会福祉方法特論F I	現代社会における子どもや家庭の生活上の問題や児童福祉政策の動向を踏まえ、文献等を通して児童福祉施策や児童福祉実践のあり方を検討する。また論文作成に向けた研究法や論文執筆のあり方について、研究法に関する文献等をして学ぶ。
社会福祉方法特論C I	この授業は、論文作成のプロセス、構成の仕方、などの研究の基礎を学ぶことを目的としている。本コースでは前期には、研究方法に関するテキストを読みその理解を深め、後期には、実際に論文の構成を理解・評価できるようになることを意図しそれを実践していく。
教育学専攻	
教育工学特論講義	教育・学習のあらゆる面に関与する諸問題を分析し、解決していくことを目的とした教育工学研究のうち、特にICT活用教育や、教科横断的な学習に関する問題を中心に、その研究動向を学びます。また、現在生じている課題を把握し、その解決方法を考えます。
教科教育学特論 II 講義	人間の生涯にわたる音・音楽との交流による美的感情の形成および人格形成について研究します。そのために音楽教育に関する多様な文献を購読し、受講者による討論を行い理解を深めます。また、さらに音楽実践を取り入れ、具体的な事例も用いるなど様々な学習経験を通して、自己の音楽教育への考え方の形成を目指します。
教育行政・経営学特論講義	EBPM(証拠に基づく政策立案)がより一層求められているなかで、教育政策評価をどのように行っていくのか、その理論や方法について具体的な事例を用いて体系的に学んでいきます。
教科教育学特論 I 演習	内外の授業研究文献を読み、実際の授業を観察・記録したデータ処理の方法についても実践的に学習する予定です。また、授業データ採取と処理のために、デジタルビデオカメラやパソコンの利用に習熟する時間が必要ですが、授業時間内では無理があるため、個々の主体的な補習が必要な場合があります。
女子教育論特論講義	日本の近代以降の女性の教育、家庭教育に関する文献を読み合わせながら、各時代の女性の教育・生活・活動および家庭教育を検討する際の分析視角(支配的なジェンダー観、両性の関係構造、規範の受け手の視点、階層性など)を獲得することを目指すとともに、これからの女性の教育、家庭教育を考える上で求められる分析視角について考えていきます。
現代社会論専攻	
経験社会学特論演習	現代社会はこの数十年で大きな変容を経験している。私たちはこの変化を、ジェンダー秩序の再編、新自由主義、ジェントリフィケーション、など具体的領域の変化として経験する。本講義では、受講生のそれぞれの関心にひきつけ、こうした具体的な領域について検討したうえで、受講者の研究テーマ設定の一助になるよう、これらの諸変化どうしをどのように関連づけられるかという点から議論を掘り下げる。
文化人類学特論演習	文化人類学的フィールドワークは、調査対象地における日常の文脈を理解する試みである。その日常は、差異に満ち満ちている一方、人びとの手によってその文脈に基づき創造と同質化が行われる。本講義では、この創造と同質化について、グローバリゼーション、植民地経験、民族アイデンティティの表出、観光などの社会現象を取り上げ人類学的に考察していく。
社会変動論特論講義	本演習は、質的および/または量的な調査にもとづき、理論と歴史をふまえた比較社会学という観点から、参加者の研究を深めることを目的としている。具体的な進め方は、参加者と話し合いながら決めている。
社会スポーツ論特論講義	遊び、スポーツ、レジャーそして健康といったことと関連する問題を身体論から解きほぐしながら、現代社会においてそれらはどのような意味をもっているのかを明らかにする。より具体的には、高度に発展した消費社会が遊び、スポーツ、レジャー、健康に及ぼす影響、とりわけ幻影化されているのではと思われる諸点を批判的に取り上げていきたい。
メディア論特論演習	マス・メディア、メディア及びコミュニケーション現象を中心に、近現代社会に対する社会学的考察を行う。とくに(マス・)メディアに人々をひきつけ、それについて語りしめる想像力の様態自体を一つの社会学的現象ととらえながら、「現実の」社会におけるメディアの実定性とそうした想像力との関係を考えていく。文献購読も、受講者と相談のうえ考えたい。

心理学専攻	
心理学研究基礎論講義	心理学専攻の指導体制の強化一環として教員全員で指導を行う。各自の研究発表により院生相互の情報交換を行いながら、教員との議論を通じて高度な研究法についての知見を広め深めることを目的とする。
基礎心理学特論Ⅱ演習 (知覚心理学)	知覚・認知心理学に関する古典的な文献や最新の論文を購読し、院生自身の研究推進に必要な基礎的知識を会得する。また、心理物理学の実験を自ら組み立てて遂行することにより、実践的な実験手法や解析手法を身につける。
基礎心理学特論Ⅲ演習 (発生論的認知心理学)	実験心理学では、どのような研究をするべきなのかといった研究の動機付けや、どうすればいい実験ができるのかといった方法論まで、実践的な研究活動を念頭に演習を行う。また、医療現場における乳児検査プログラムについても、検討を行う。
グループアプローチ特論講義	医療・教育・産業など分野を問わず活用されているグループでの心理学的支援法の一つである構成的エンカウンターグループと社会的スキル訓練を中心に、その理論的背景と実践上の要点についてワークを交えながら学習する。受講生同士でプログラムの企画とファシリテーションを輪番で担当し、「いま・ここ」での体験の振り返りを重視しながら、グループの力動や成長、普遍性や対人学習のプロセスを学ぶ。
臨床心理学特論講義1	カウンセリング実践に関する文献を講読し、基本的な臨床的態度および心理臨床業務の進め方、プロセスについて体験的に学ぶ。
臨床心理実習I-1 (心理実践実習)	心理実践活動に必要な知識・技能の基礎的な理解の上に、心理実践の現場における実習を行う。具体的には、保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業領域に関して、見学実習や実践実習を行うことに加え、心理相談室での担当ケース実習等を行う。
関連文化論専攻	
文化論特論演習Ⅰ(日本)	日本の宗教史・宗教文化と民俗文化の関係性について、関係する論文を取り上げ、その内容を理解していく。具体的には、黒田俊雄の宗教史研究・寺社勢力論、神仏習合思想、陰陽道と民俗文化に関する諸研究、神楽と修正会に関する諸研究、中世～近世の偽文書研究・由緒書研究などについて講読する。日本の宗教史と民俗文化の関係性について理解を深め、民俗誌的な事例を検討する手法を学ぶことを目標とする。
文化論特論演習Ⅱ(日本)	日本の思想・哲学・宗教に関するテキストの丹念な読解を通して、概念用語や教義用語の背景にある基本発想(思想以前の思想)までさかのぼって思想を理解していく力を養う。同時に、関連する史学・文学・美術分野、東洋・西洋思想なども視野に入れながら考察することで、複眼的な見方と柔軟な思考力とを養成すると同時に、それらの中にある現代への思想可能性を引き出すことを目指す。
文化論特論講義Ⅳ(西洋)	西洋美術史において、具体的に作品を分析しつつ、隣接する研究分野(文学、服飾、演劇、映画、建築…)との関連も視野に入れながら領域横断的に考察する力を養う。西洋美術史に関する高度な研究と修士論文執筆のために必要な外国語の能力、多様な美術史の方法論、作品の分析の仕方を、外国語文献の講読と研究発表・ディスカッションを通して、実践的に身につけることを目標とする。
比較文化論特論講義	ヴィクトリア朝を中心にイギリスらしさとは何かを探る。具体的には、男女のファッション、美術運動、娯楽や趣味に対する考え方、フランスとの比較、工業や科学技術の発展を論じた論文を検討することで、イギリス人が独自のものと信じた感受性がどのように形成され、発展したのかを学ぶ。今年度は特に、家事使用人のユニフォームを取り上げ、階級とジェンダーの関係から特徴を明らかにする。
芸術文化史特論講義	日本美術に関して、多角的な視点から美術作品にアプローチし、詳細な分析を通して、作品解釈を深めることを目指す。前期は、先学の研究論文や美術史の方法論に関する文献の講読を行い、多様な美術史の方法論を学び、また、論文作成のための、資料調査の方法や作品調査の方法などを学習する。後期は、前期の学習を踏まえ、発表とディスカッションを行う。発表に際しては、それまでに学んだ分析や解釈の方法を、自らの研究テーマに応用し、新たな解釈を導き出すことを目指す。一年を通して、各自が論文作成を明確に目標とし、調査および研究を行い、成果を導き出すことを目的とする。

数理・物性構造科学専攻	
数理・物性構造科学総合演習	3部門(数理構造、情報システム構造、構造物性)合同でそれぞれの分野からトピックスを選び先端的な研究者の講義を聴くことで先端知識の吸収を図るとともに、1年次の院生の研究状況をもとにディスカッションし関連分野の理解を深める。
代数学構造論A	代数的整数論の初歩について学ぶ。特に、最も基本的で重要な対象である「イデアル類群」「単数群」についての有限性定理を解説する。また、代数体の Galois 拡大における Hilbert の分岐理論について学び、2 次体や円分体の場合について具体的に適用する。
幾何構造論A	可微分構造を兼ね備えた位相空間として多様体の定義をし、その例を解説したうえで接空間や写像の微分など関連する基本的な概念を説明する。引き続き、多様体上の群作用に関する基礎事項と等質空間の基礎事項を解説する。
解析構造論 I (エルゴード理論)	古典統計力学に端を発している「エルゴード理論」とよばれる数学理論について学ぶ。エルゴード理論は、確率論、数論、関数解析、幾何学など様々な分野と密接な関わりを持っている。本授業では、エルゴード理論入門として基礎的な内容を紹介する。
数理構造論A (関数方程式)	非線形偏微分方程式を取り扱う方法の一つに、関数空間上で定義された凸関数の劣微分作用素を用いる方法がある。まず、線形な境界条件を伴う楕円型方程式に対する境界値問題を紹介した後、その問題の解を記述する弱形式を定義する。さらに、劣微分作用素を用いて、弱形式の解を定義し直す。本講の目的はこのような偏微分方程式の解法を理解することである。そのため、関数空間、凸関数、劣微分作用素に関する基本的な性質から紹介していく。
位相幾何学構造論B	基本群と被覆空間に関する初歩の知識をできる限り丁寧に解説する。なるべく多くの具体例を実際に計算して観察することにより、一般的・抽象的に書かれた定義の意味を理解する。
数理情報科学IV (代数幾何符号)	仮想通貨やNFTを通して最近注目を浴びている分散型ネットワークシステムであるブロックチェーンについて学ぶ。特に、ブロックチェーンの基礎を成す暗号技術とP2Pネットワークシステムについて解説し、Python上で実装することを目標とする。
情報科学 I	インターネットにおける情報収集法について学ぶ。インターネットが短期間に発展できたのは、誰もが簡単に情報を発信し、受け取ることを容易にしたためと言われる。それをさらに加速したのがWEB検索サービスである。WEB検索を行うには、もととなる情報をインターネット上で収集する必要がある。本講義では、WEBサイトを巡回して情報を収集するクローラーエージェントについて実践的に学ぶ。
情報科学VI	近年のデータサイエンスや機械学習では、大規模なデータを扱い、クラウドなどの大規模計算機を活用する機会が増えている。エンジニアや研究者は、Pythonプログラミングだけでなく、オペレーティングシステム、大規模データ処理、ネットワークなどのUNIXエンジニアリング力が総合的に必要となる。基礎となるUNIXシステムを習得し、より本格的な研究活動やエンジニアリングが可能になるように特訓する。
情報物理 III (計算機特論(ハードウェア))	組み込みシステムやセンサネットワークシステムは、高度に情報化が進んだ社会において主要な役割を果たす計算機システムになると考えられる。本講義では、これらのシステムおよびその周辺分野の概要を学び、今後の社会におけるこれらの技術の位置付けを考えるとともに、センサネットワーク技術の詳細を学ぶことで、従来とは異なる新しい計算機システムの可能性について議論する。
情報物理IV (計算機特論(ソフトウェア))	我々の日常生活において、コンピュータやインターネットの存在はなくてはならない存在となり、常に膨大なデータ量の中に埋まっている。この中から、有用な知識を見つけ、意思決定を行うことが必要とされており、これを行う技術がデータマイニングである。データマイニングは大量のデータを扱うため、大規模なシステムがないと構築できなかったが、コンピュータ技術の発展により、大容量の計算が可能となったことから、データマイニングが注目を集めるようになってきた。本講義では、データマイニングの基礎的な技術である多変量解析を中心に代表的な技術について学ぶ。
量子力学特論 II	量子論における物性、特にスピンに着目し、有機半導体や電荷移動錯体などの分子物性科学の柱の一つでもある「分子磁性」への理解を目指すものである。
宇宙物理特論	量子力学、特にエネルギーと電磁波の放射の関係についての復習の後、宇宙に存在する星間物質とそこからの放射について解説する。さらに、その応用として、電磁波の性質を調べることで、天体のどのような物理的な性質が明らかにできるか、その手法について学ぶ。
構造物性科学 II	近年、固体表面の物理現象は電子工学、電気化学、触媒などのさまざまな応用分野を切り拓いてきた。現代の最先端技術を支える材料、薄膜の作り方や物性の測定法の基礎となる表面物理学について学び、また各種の表面分析装置で用いられている真空についても理解を深める。
構造物性科学 III	本講義では、超伝導を説明する現象論であるギンツブルグ-ランダウ理論と超伝導を微視的に説明するBCS理論についての概要を学ぶことで超伝導現象について理解することを目指す。また、超伝導のデバイス応用等について学ぶ。
構造物性科学 V	The course covers the optical physics of solid state materials, including metals, semiconductors and insulators. Mainly, it focuses on the classical theory of light propagation in solids and the quantum theory of absorption and emission in solids. Furthermore, the modifications caused by excitonic effects will be discuss.
応用物理学 I	我々の自然界を構成する基本粒子は素粒子と呼ばれており、素粒子の一種であるクォークから核子と原子核が構成されている。素粒子原子核物理学は、物質の究極的な構造と自然界の基本相互作用を研究する分野である。この授業では、学部で勉強した量子力学や電磁気学などを応用して、素粒子原子核物理学の基礎を学ぶ。
情報フロンティア	情報科学は日進月歩の発展が続き、常に研究・技術動向に触れていることが求められる。そこで本講義では、情報科学に関する最新の動向を、各分野のエキスパートから学ぶ機会を提供する。
物性物理フロンティア	物性物理学などの現代物理学の最近の進展は以前にもまして著しく、その領域もますます拡大している。その背景には、新しい物質の発見や測定技術の進歩、超微細加工に見られる先端技術を利用した試料作製などがあり、その成果は、再び現代社会を支える技術の中に活用されている。このような最近の物理学の進展に間近に触れ、大いに刺激を受けることは、学修・研究の質を高めることにつながる。そこで本講義では、物性物理学をはじめとする現代物理学におけるエキスパートに新鮮な話題を提供していただく。

物質・生物機能科学専攻	
物質機能科学Ⅰ (分子物性科学特論)	前半では分子軌道法の原理を学習し、分子軌道の決定について学ぶ。 後半はおもにGAUSSIAN09を用いて簡単な分子の計算を行う。応用問題として、炭素炭素間の単結合および2重結合、ペプチド結合の回転障壁の計算を行う。
物質機能科学Ⅱ (反応動力学特論)	血管の全体構造や植物の分枝構造、空を走る稲妻など、世の中には不規則で複雑、しかし美しい構造や現象が多い。こうした複雑な構造や現象に対しては、まず、その複雑さを定量化する「フラクタル」というアプローチが有効である。このアプローチについて基礎から学ぶ。フラクタル構造を、パソコン中に再現することにもチャレンジする。
物質機能科学Ⅲ (有機物性化学特論)	特殊な構造をした有機化合物では特殊な性質が発現する。これらの性質が基本となってホスト-ゲスト化学が成立する。講義では、ホスト-ゲスト化学と包接などの概念を説明し、代表的で興味深い性質を持つ化合物を取り上げる。また、後半は受講学生自ら関連分野の英文論文を探し出し、読み、各人に解説してもらい、この発表に対し、質問と討論を行う。
物質機能科学Ⅳ (有機合成化学特論)	医薬品や化粧品などに含まれる成分は有機化合物であり、人工的に合成された化合物が大半である。本講義では、はじめに有機化合物の性質を理解するための基礎知識を取り上げる。次いで、実際に医薬品合成に利用されている有機反応を中心に、官能基変換反応、骨格変換反応などについて学ぶ。
物質機能科学Ⅴ (分析化学特論)	DNAシーケンス、蛍光を使ったバイオ分析、マイクロチップ分析、臓器チップなど、最前線の生物分析化学について、基礎知識の説明と研究論文の紹介を通して学ぶ。
物質情報科学 (環境化学特論)	環境中での物質の動きを理解する基本となる基本的なツールを身につけることを目的とする。速度論、化学平衡、熱力学などについて環境化学的な例題を用いて解説し、演習問題を解きながら学ぶ。
分子細胞科学Ⅰ (分子細胞機能特論)	分子生物学の分野の、特に重要な発見に導いたと考えられる研究論文をいくつか紹介し、その研究内容を説明する。そこで行われた実験方法、実験結果の解釈、ならびに結論にいたる論理などを説明する。
分子細胞科学Ⅱ (分子細胞構造特論)	生物は、複雑多様でありながら秩序だった機構を備えている。遺伝子の塩基配列が与える「抽象的な秩序」を生きている生物の機構と結びつけるには、生体内での微細な構造の可視化解析が有効である。本講義ではこうした解析から明らかになったオルガネラの分化や細胞内の物質輸送などに関する最新の研究成果について紹介する。受講者との意見交換を通じて、学術的な議論の展開法も学ぶ。
分子細胞科学Ⅲ (分子発生生物学特論)	動植物の個体発生におけるボディープラン形成、形態形成ならびに細胞分化の制御機構について分子や遺伝子の機能の観点から学ぶ。生物学全般の基礎となる知見を広めるとともに、研究の着眼点、方法、データの整理や評価等の能力を養成する。
分子細胞科学Ⅳ (分子細胞操作特論)	実験動植物の遺伝子操作は、研究室で汎用される重要な実験手法であり、食品・医療等の分野にも応用されている。遺伝子操作の基本原則や実用性を学ぶと共に、最新のトピックスに関する知見を得ることを目的とする。
生体分子科学 (生体物性化学特論)	タンパク質や核酸といった生体高分子の立体構造構築原理や機能との関連を学び、生体高分子の立体構造に立脚した生体反応の分子機構について、最新の研究成果を通して理解を深める。
生体制御科学Ⅰ (適応制御特論)	全ての生物において、多様な環境変化に適切に対応することは種の存続のために極めて重要である。本講義では、神経科学・発生生物学・免疫学など様々な分野における最新の重要論文を理解・発表する練習を通じて、生物の環境適応メカニズムについて理解を深めるとともに、研究成果を多くの人に適切に伝える技術を身につける。
生体制御科学Ⅱ (成長制御特論)	多くの植物では、外界の環境変化を感知し、さらに自己の発生プログラムに従い、栄養成長から生殖成長への切り替えを行う。本講義では、植物の生殖成長、受精に注目し、その制御機構を、論文の内容に基づいて概説する。受講者は、関連原著論文、原著総説などを選択し、その内容を報告、論議する。
生体制御科学Ⅲ (環境生物学特論)	生物と環境との関係を理解することは、生物の適応様式の理解につながるなど、生態学だけでなく、生物に関連する多くの分野の学習において重要である。本講義では生物と環境の関わりを学ぶとともに、最新のトピックスに関する知見を得ることを目的とする。
分子生理科学Ⅱ (生体高分子科学特論)	生体高分子は、生命活動を営む上で最も重要な物質群のひとつである。中でも、タンパク質は生体の化学反応、即ち代謝に深く関与している。本講義では、特にタンパク質の機能と構造について、実践的な研究手法を紹介しつつ、体系的に理解を深めることを目的とする。